

## 第4節 少年の非行抑止阻害理由と規範意識形成要因

この節では、保護者が考える少年の非行抑止を阻害する理由と、規範意識の形成要因の1つであると考えられる家庭のしつけの調査結果を報告する。

### 1 少年の非行抑止を阻害する理由

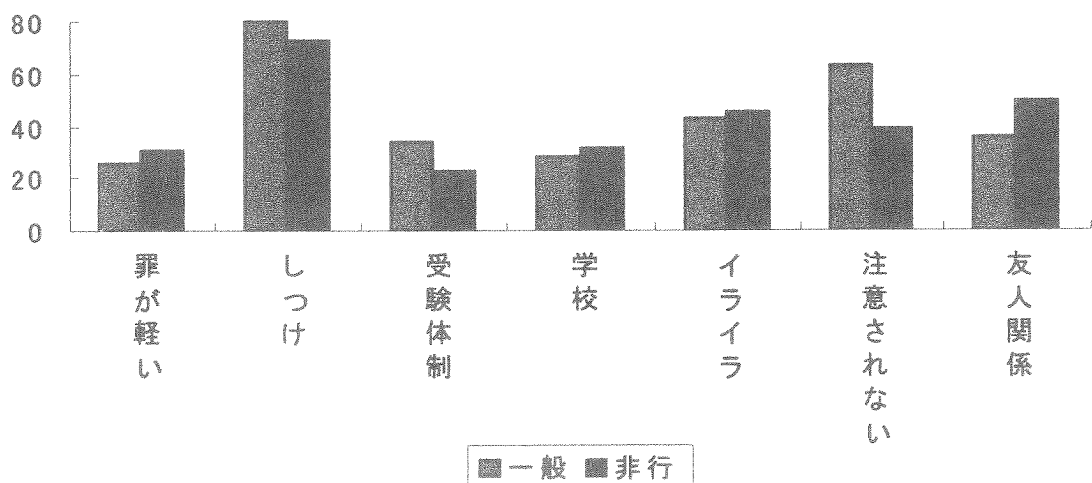
ここでは、少年の非行抑止を阻害する要因の1つとして、少年の重大犯罪が多発している理由を保護者に尋ねた結果について述べる。

回答は、以下に示す8つの理由について、当てはまるものすべてを選択するよう求めた。

- 1 少年だと罪が軽いから【罪が軽い】
- 2 親のしつけが行き届かないから【しつけ】
- 3 受験体制に問題があるから【受験体制】
- 4 学校がつまらないから【学校】
- 5 イライラすることが多いから【イライラ】
- 6 悪いことをしても注意されない【注意されない】
- 7 友人関係に問題がある【友人関係】
- 8 その他【その他】

結果は、図7-1に示すとおりである。

図7-1 少年の重大犯罪が多発している理由



これをみると、一般群・非行群の保護者とも、少年の重大犯罪が多発している理由として一番多く答えていたのが、「親のしつけが行き届かないから」（一般群；80.4％、非行群；73.1％）であった。2番目に多かったのは、一般群の保護者が「悪いことをしても注意されない」（一般群；63.4％、非行群；39.1％）に対し、非行群の保護者では「友人関係に問題があるから」（一般群；35.9％、非行群；49.1％）である。

また、両群の保護者とも、「子どもがイライラすることが多いから」（一般群；42.9％、非行群；45.3％）を3番目に挙げている。

## 2 家庭のしつけ

ここでは、少年の規範意識を形成する要因の1つとして家庭のしつけを考え、保護者が自分の親から、日常生活上のしつけ・道徳上のしつけについてどのくらい言われていたかを尋ね、少年に対する質問紙調査で得られた少年がどのくらい親から言われているのかを尋ねた結果、と比較する。

回答は、以下の中から1つを選択するよう求めた。なお、少年に対する回答の選択肢は( )内に記述した。

- 1 よく（いつも）言われた（ている）
- 2 時々言われた（る）
- 3 たまに（あまり）言われた（ない）
- 4 全く言われなかった（い）

### (1) 日常生活上のしつけ

日常生活上のしつけについて、以下の12項目について尋ねた。

- ア 日常的なあいさつ【あいさつ】
- イ 身の回りの整理・整頓【整理・整頓】
- ウ お金や物を大事にする【お金等を大事に】
- エ 勉強しなさい【勉強】
- オ 粘り強く何かをやり通す【粘り強く】
- カ ガマンする【ガマンする】
- キ 人から信頼される【信頼される】
- ク 進んで新しい方法を見つける【方法を見つける】
- ケ 自分で物事を計画し実行する【計画・実行】
- コ 安全に気をつける【安全】

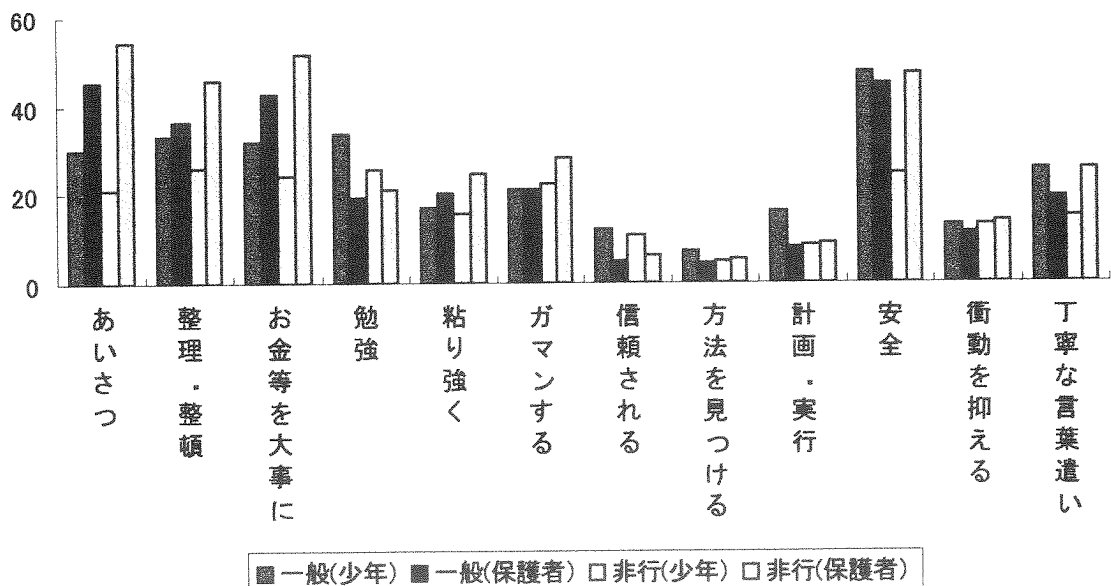
- サ 一時的な衝動を抑える【衝動を抑える】
- シ 丁寧な言葉遣い【丁寧な言葉遣い】

「よく（いつも）言われた（ている）」と回答した者の割合を図7-2に示した。

全体的に見ると、それぞれの事柄に対して、少年が「いつも言われる」と回答した者の割合より保護者が「よく言われた」と回答した者の割合の方が高くなっている。一般群・非行群それぞれについて、保護者の方が少年より「言われた（る）」と回答した者の割合が概ね10ポイント以上高い事柄は、一般群では、「あいさつ」（少年；29.8%、保護者；45.2%）や「お金等を大事に」（少年；31.9%、保護者；42.4%）の2つであるのに対し、非行群では、「あいさつ」（少年；20.9%、保護者；54.1%）や「整理・整頓」（少年；25.9%、保護者；45.6%）「お金等を大事に」（少年；24.4%、保護者；51.7%）「粘り強く」（少年；15.5%、保護者；24.7%）「安全」（少年；24.8%、保護者；47.0%）「丁寧な言葉遣い」（少年；14.8%、保護者；25.3%）の6つの事柄であり、非行群の保護者は、自分が親から言われた程には子どもに言っていないことが顕著である。

また、「勉強」（少年；33.6%、保護者；19.1%）については、一般群の保護者は、親から言われた以上に子どもに言っている。

図7-2 日常のことで親から言われる(た)こと  
[少年と保護者の比較]



## (2) 道徳上のしつけ

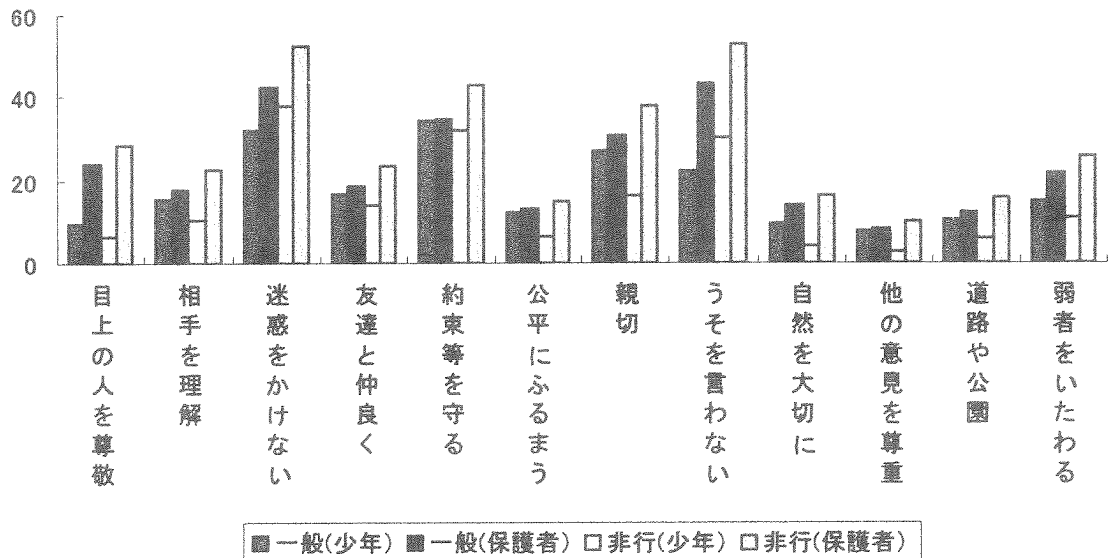
道徳上のしつけについて、以下の12項目について尋ねた。

- ア 目上の人を尊敬する【目上の人を尊敬】
- イ 相手の立場を理解する【相手を理解】
- ウ 人に迷惑をかけない【迷惑をかけない】
- エ 友達と仲良くし、助け合う【友達と仲良く】
- オ 約束や決まりを守る【約束等を守る】
- カ 好き嫌いや利害にとらわれず公平にふるまう【公平にふるまう】
- キ 人に親切にする【親切】
- ク うそを言わない【うそを言わない】
- ケ 自然を大切に【自然を大切に】
- コ 自分と異なる意見でも尊重する【他の意見を尊重】
- サ 道路や公園を汚さないように気をつける【道路等を汚さない】
- シ 弱者をいたわる【弱者をいたわる】

「よく（いつも）言われた（ている）」と回答した者の割合を図7-3に示した。

全体的にみると、道徳上のことで保護者や少年が親から「言われた（る）」と回答した者の割合は、日常生活上について「言われた（る）」と回答した者の割合より低い。また、保護者と少年を比較すると、日常生活上のことと同様に、少年が「いつも言われる」と回答した者の割合より保護者が「よく言われた」と回答した者の割合の方が高くなっている。一般群・非行群それぞれについて、保護者の方が少年より「言われた（る）」と回答した者の割合が概ね10ポイント以上高い事柄は、一般群では、「目上の人を尊敬」（少年；9.6%.保護者；23.8%）や「迷惑をかけない」（少年；32.2%.保護者；42.5%）「うそを言わない」（少年；22.1%.保護者；43.1%）の3つであるのに対し、非行群では、「目上の人を尊敬」（少年；6.4%.保護者；28.4%）や「相手を理解」（少年；10.2%.保護者；22.7%）「迷惑をかけない」（少年；37.8%.保護者；52.5%）「友達と仲良く」（少年；14.1%.保護者；23.4%）「約束等を守る」（少年；32.2%.保護者；42.8%）「親切」（少年；16.3%.保護者；38.0%）「うそを言わない」（少年；30.3%.保護者；53.0%）「自然を大切に」（少年；4.2%.保護者；16.3%）「弱者をいたわる」（少年；10.8%.保護者；25.6%）の9つの事柄であり、非行群の保護者は、自分が親から言われた程には子どもに言っていないことが顕著である。

図7-3 道徳上のことで親から言われる（た）こと  
[少年と保護者の比較]



### 3 まとめ

この節では、保護者が考える少年の非行抑止を阻害する理由、および、少年の規範意識を形成する要因の1つとして考えられる家庭のしつけについて検討した。

まず、保護者が考える少年の非行抑止を阻害する理由についてであるが、一般群・非行群の保護者とも、親のしつけの問題や少年がイライラした感情を持っていることを回答した者が多かったという点では共通しているが、両群の違いは、一般群の保護者が、「悪い事をしてでも注意されない」というように直接的な行動規制の不足を理由としてあげているのに対し、非行群の保護者は、友人関係に理由を求めている点である。

また、家庭のしつけについては、多くの項目で、保護者がその親から言われた程には子どもに言っていないという結果が示され、保護者が成長過程にあった時期と現在とを比較したとき、家庭における「しつけ」機能の低下が推測され、特に、非行群の少年・保護者においてその傾向が顕著である。